

1・疲れた夜の！ あまあまラブラブいちゃいちゃえっち

1の1 帰宅してすぐの、ラブラブ授乳手マン

とある夜。七時ごろ。

主人公、仕事を終え、よろよろのフラフラで帰宅してくる。

肉体的にとりよりも、精神的にかなり疲弊している。正直今すぐトワに甘えたい。

**SE1**…マンション廊下の環境音

**SE2**…主人公が自宅の扉を開錠する音

**SE3**…主人公が自宅の扉を開けて、閉める音

〈主人公〉

「ただいまあ……」

**SE4**…【かなりスピードを上げて加工して、5秒分ほど繰り返し流す】トワの足音

主人公が家に入るなり、トワが飛びついてくる。

トワ、まだ部屋着に着替えていない。お出かけ着にエプロン姿。

主人公を待ちながら夕飯の支度をしていたようだが、着替えていないあたり、なんだか用意周到である。

服はワンピース。すぐに脱げそう。

**SE5**…トワが主人公に抱きつく音

●少し遠くから近づいてくる【「り」のあたりから左側】

「お・か・え・り・な！ さい♥」

〈主人公〉

「ただいま！ トワちゃん！」

**SE6**…主人公がトワと抱き合う音

主人公、トワの顔を見ただけでなんだか元気になる。

抱きしめられて、トワの匂いをすんすんかいでいるだけでエネルギーが回復してきて『大丈夫、いける……』という気持ちになってくる。

対するトワは目ざとい。

主人公が明るく振る舞おうとしているが、実際はへろへろなのをすでに理解している。トワ、いったん主人公に向き直る。

●中央 向かい合うイメージ

「待ってましたよお♥

【まくしたてるように甘く早口で】

早速ですけどえっちします？ それともえっちします？ あ、やっぴりえっちします？

【返答を待たず『するよね！』という感じで】

イエス！ しましろう！」

〈主人公〉

「いやいや、トワちゃん、わたしは……」

主人公、嬉しいが、なんだか申し訳ない。

一日頑張って、疲れているのはトワも同じだからである。

●中央

【主人公のセリフを想定して、ワテンポ置いて。コミカルに、甘く諭す】  
素直になって、いいのですよ？」

〈主人公〉

「……うう!! ……したいです……!!」

だが主人公、こう言われるともうだめ。

トワとの同棲生活で、すっかりえっち大好きなのがバレてしまった。というか、そうなるように育てられた感がある。

●中央

「『オーケー』で】

OK♥

わかってたんですよ♥

今日はきつとボロボロ。ヨボヨボの状態で帰ってくるだろうと！

トワ、そのつもりで待ってましたからね♥」

SE7…トワがエプロンのポケットからスマホを出す音

〈主人公〉

「はっ。もはや……」

●中央

「はいっ。いちばん覧下さる」

トワ、スマホを取り出し、謎のアプリに記録された主人公の健康状態を見せる。  
主人公、気づくとすっかり体調管理までされている。

SE8…【2回分繰り返して『ピ、ピ』と鳴らす】トワがスマホを操作する音

●中央

「アナタのお仕事の大変さを示したグラフが、青。

アナタの体調を示したグラフが、赤

【『うん』と『今日』で一呼吸置く】

うん。今日、見事につらさのピークが重なっていますねえ。

【少し間を置く。主人公がグラフを見て『あ、客観的に見て休まないとだめだわこれ』と理解させる時間を与える】

これはもう、休むしかありませんね

リケジョのトワには。全部お見通しなんですよ

●少し遠ざかる 主人公の手を引っ張って、寝室に連れて行こうとする

観念したら、はい♥ お布団、お布団♥

●中央【至近距离】

【少し間を置いて。『うあれ』という感じで】

うあれ。泣いています」

トワ、主人公が泣いているので、びっくりする。

普段からして涙もろい人だが、まさかまだ何もしてないのに泣くとは思わなかった。  
対する主人公、トワの優しさが嬉しくてたまらない。

主人公はモテず、恋人と過ごした経験があまりないままアラサーまで年を取った。なので、愛されること、尽くされることに慣れてない。疲れた身体に愛情が染みて、涙が出てしまう。

〈主人公〉

「……ご、ごめんね……。嬉しくて……。」

トワちゃん、こんなにわたしのことを考えてくれてるんだなあって思ったら……。な、涙が出てきちゃってえ……。

トワちゃあん、ありがとう。こんなにしてもらえるなんて嬉しいよ……。本当はね。今日結構辛かったの。

だからえっちなしたいです。トワちゃんにめっちゃめっちゃにされたいです……。!!」

トワ、主人公が律儀に『えっちなしたい』と復唱するので、トワ『これが日頃のえっちな賜物……』『すっかり調教してしまった……』と少し思う。

トワ、本当は人並みにモテるのに、なぜかいつもそれに気づかずスルーし、結果強い孤独感を抱えたまま大人になってしまった主人公が、可愛くてたまらない。

特に自信なさげに丸まった背中と、しゅんとした伏し目がいい。

『正直食べちゃいたいです♥』と思っている。

●中央【至近距離】

「【相槌を打つ】

わぁお……。」

【声が少し真面目になる】

そうですね。今日はそんなにつらいことがあったんですねえ。

【優しい声で】

大丈夫ですよ♥ これからトワがたっぷり♥ その疲れを取ってあげますから♥

それにい。

●右耳にささやく【至近距離】

泣くのはお布団の上で。ですよ♥「

トワ、主人公の手を引いて、寝室へ連れて行く。

SE9…【繰り返して、合計5秒分ほど流す。二人分重ねない】トワと主人公の足音

SE10…トワが寝室の扉を開ける音

SE11…トワが寝室の扉を閉じる音

SE12…【ここからトラック終わりまで小さく流れ続ける】部屋の環境音

●中央【少し離れている】

「はい、とーちやく♥

【可愛くて仕方ない、という感じで】

あぁ。また目、ぶるぶるしちゃってさ。

●中央【少し離れている】

【額に軽くキスする】

ちゅ♡

〈主人公〉

「トワちゃん！」

主人公、とうとう耐えかねてトワに抱きつく。

トワ、それをしっかりと受け止める。主人公よりもトワの方が、背が高い。

SE13

…主人公がトワに抱きつく音

SE14

…トワが主人公を撫でる音

●中央

【『おお』は気持ち声高めに】

おお。よし、よし♡

ふふ。可愛い甘えんぼさんですね♡

〈主人公〉

「弱くてごめんねえ……。弱くてすぐ泣くダメな人でごめんねえ……」

●中央

「うん、うん。弱くていいじゃありませんか。」

【ひときわ優しく】

トワは！ 優しくてよわよわな。アナタが大好きですよ♡

【脛に軽くキスする】

ちゅ♡

●中央【至近距离】

【主人公の泣き顔を見ていたら、どんどんいやらしい気分になってくる】

可愛い。

そんな顔で見られちゃったら。

トワ、何でもしてあげたくなくなっちゃいます♡

トワ、主人公のあごを軽く持ち上げてキスする。

●中央【至近距离】

【唇に軽くキスする】

ちゅ ♡

【『可愛い』の『かわいい』。本音が漏れる感じで】

かわいい……。

【ゆっくり舌を入れて、30秒ほどディープキスする】

ん……♡ ちゅっ♡ くちゅっ……れろっ……。ちゅるるっ……ちゅぽっ。

【唇を離してすぐ、もう一回軽くキスする】

ちゅ ♡

【少し照れて】

あは……。何だかトワも、すっごくえっちな気分になってきちゃいました」

トワ、主人公を抱きしめて、優しく主人公の背中を撫でる。

SE15 …トワが主人公の背中を撫でる音

●中央

【額に軽くキスする】

ちゅ ♡

いい子、いい子。

今日はたくさん頑張りましたから。少しお休みしましょうね」

トワ、一度主人公から離れると、ベッドの上に座る。

SE16 …【繰り返して合計3秒分ほど流す】トワの足音

SE17 …【0ー5秒ほどまで流す】トワがベッドに腰掛ける音

SE18 …【0ー2秒ほどまでの『ぼん、ぼん、ぼん』までを流す】トワがベッドをぼん、

ぼん、と叩く音

●少し遠くから

「ぼん。おいっ」

〈主人公〉

「……!!」

SE19 …主人公がベッドに飛び込む音

SE20 …【繰り返して2回分流す】主人公がトワに「そそと抱きつく音

主人公、トワの胸に勢いよく飛び込む。完全に甘えモードに入っている。

トワ、それが思ったより激しいので驚く。

聞くところによると、主人公は交際経験が少なく、現在の、心から好きだと思った人と交際できている生活が信じられないらしい。

トワ『それはトワもだいたい同じって言うか、主人公以外にお付き合いした人は当然ゼロですわ〜』と思いつつ、そんな主人公に、自分のできることは何でもしてあげたいと感じる。

主人公、トワの胸にしがみつく。

トワ、そんな主人公の頭を撫でる。

〈主人公〉

「……トワちゃん、好き……。大好き……。えっちしたい……えっちしたいです！」

SE21…トワが主人公の頭を撫でる音

●中央、やや上

「うん、うん。

アナタは頑張ってますよ。偉い子です。

いっぱい頑張って疲れましたよね？」

おっぱいちゅちゅしておまんこすりすりして、いっぱい気持ちよくなりましょ♥」

〈主人公〉

「……うんっ……。

トワちゃん……おっぱい欲しい……おっぱい飲ませて……」

トワ、今の自分の身体は、人間として暮らしていくための、いわばアバターのようなもの。だから『トワのおっぱいニセパイなのに、そこわかっていてこんなに欲しがらなくて、ほんとこの人可愛いです』と思う。

主人公のことを、好きなだけ甘えさせてあげたいと感じる。

SE22

【0—5秒ほどまで流し、その後セリフと重ねて流す】主人公がトワの胸に顔をうずめようとする、ごくごくそとという音

●中央、やや上

「くすぐったくて笑ってしまう」

あふ

こらあ。そんなに早くおっぱい飲みたいですか？

毎日飲んでるくせに♡

【ひとときわ甘ったるく】

本当に！ えっち大好きさんなんですからあ♡

SE23

【0ー15秒ほどまで流し、音量は小さめに加工する。『勢いよく降ろす』という印象にならないように、ジッパーを降ろす部分は、本来の音よりゆっくり加工する】トワがワンピースのジッパーをおろし、ワンピースを脱ぐ音

SE24

…トワのワンピースが、すんとベッドの上に落ちる音

トワ、ワンピースのボタンを外して、背中ジッパーをおろす。

すると、それだけで下着姿になる。外で着る時は透けないように中にもう一枚着るのだが、今日は最初からこれが狙いなので着ていない。

トワ、胸が大きいので、ワンピースを脱ぐ時、胸のところだけ窮屈そうになり、少し脱ぎにくそうにする。

主人公、それを見て非常に興奮する。思わずトワの胸を凝視してしまう。

トワもそれがわかっているのに、気分がいい。

トワ、自分の身体にはさほど興味がない。

『そもそもニセパイですしい、サイズ自慢してもむなしくはないですか？ むなしさの極みですよ〜』とっている。

だが、主人公が気に入ってくれるのはとても嬉しい。主人公に対してだけは、いっぱい性的な目で見られたい。興奮してくる。

●中央

「ほら♡ 見て？ アナタ専用の、おっぱいです♡

早くブラの中、見たいでしょ？

【ひとときわ甘ったるく】

ホック。外してほしくない♡

〈主人公〉

「……！」

主人公、トワの方を見て頷きつつも、顔を真っ赤にしている。

●中央【近づく】

【少し間を空けて。主人公が胸を凝視してくせに、その手が震えているので】

えー？ まだ緊張しますっ？ ♡ ♡ 「

トワ、下着は主人公に脱がして欲しい派。

特に、主人公の手でブラジャーを外されると『これからえっちしちゃうんですね……♡』と実感が湧いて、すごく興奮する。自分で脱ぐのはいけない。ダメゼツタイ派。今日も主人公の手を導いて、脱がしてもらおうとする。

●中央【至近距离】

【自分から誘っておいで、実はとてもドキドキしている】

あ……」

SE25

…【小さめに】主人公が、トワのブラジャーのホックを外す音

●中央【至近距离】

「胸が直に空気に触れて、すごく興奮している】

えっ」

SE26

…【0—1秒ほどの、1回目の『パサ』だけを流す】主人公が、トワのブラジャーの肩ひもを落として、ブラジャーが手前、トワの膝側に落ちる音

●中央

「【いざ脱がされると、少し照れる】

えへ♡ 脱がされちゃいました……♡

おっばい。見られちゃった♡

●中央【至近距离】

あ♡ 頭うめたいの？ もお。やーらしい♡

どおぞ？ よしよし。おっばいですよー♡」

主人公、トワの胸にそーっと近づくと、中央から抱きついて、左乳首を口に含んで、無心で吸う。

最初はおとなしいが、次第に大胆になっていく。

トワ、それを受けとめようとして、だんだん身体がずれていく。

繰り返しになるが、トワの身体はアバターのようなものである。そのため、正直なところ『本場の姿』でいる時よりも、感覚はかなり鈍い。

だから本来であればあまり感じないはずなのだが、主人公が、この胸が偽物だとわかっていて、それでも夢中で甘えてくるのが可愛くて、次第に感じ始める。

●中央

【最初に軽く嘔まれて、びくっとする】  
ん……。

【20秒くらい。吸われながら、ゆっくり呼吸し、吐息が漏れる程度。そこまで感じておらず、喘がない】

はぁ……。はぁ……。ふう……。おいしい……。

【少し感じている。快感に耐えるように低めの声で】

あ……。

【20秒くらい。少し息が上がってくる】

あ……。はぁ……。あぁ……。

ふふ。夢中で吸ってますね……♡

トワのおっぱいは。アナタだけのものですから。

どんな風にもして、いいんですよ？

【また、少しだけ感じている】

あつ……。

ん……。そう……。いい子、いい子♡

上手にちゅちゅできて、とっても偉い子です。 ※2個目

【『よ。こになって』は『横になって』。少し苦しそうに。今の姿勢がっらくなってくる】

あ、そしたらあ♡よ。こになって。

お口で。ちゅばちゅばしながら。

こっちのお手手は。もう片っぱのおっぱいをもみゆもみゆ。しましうね。

したかったんでしょ♡ さっきからずっとさわわしてますもんね。

もっと強く。しっかり触っていいんですよ♡

ほら。気持ちよくて、あつたかくて。安心。するでしょう？

●上 髪にキスする

ちゅ♡「

SE27：【0―8秒ほどまで流してセリフ。その後最後まで流す】主人公とトワがベッドに横になる音

主人公とトワ、ベッドに横になる。

主人公としては、右耳を上になっている状態。トワ、主人公の背中を優しく撫でる。

●やや右側

「んー？ おっきいおっぱい好きい？」

トワも。アナタにもみもみされるの。好き♥

【10秒くらい。吸われながら、ゆっくり呼吸する。さっきよりも感じている】

……あ。はあ……はあ……はあ……

すっごくいい子ですから、頭。なでなでしてあげますね♥」

トワ、主人公に乳首を吸わせているうち、自分がまるで主人公の母親になったような気分になってくる。そう思うと、胸が温かく、きゅーんとなる。

トワ、自分はこういう性格だし、母性などといったものはないと思っている。

だが、主人公とこうしていると、なぜかふつふつと温かいものが湧く。

だから幸せなのだが、実際は母親ではないので、ずっと吸われていると感じてしまっ、だんだん余裕がなくなってくるのも事実。

しかも、ここで主人公が、吸っていない方、トワの右乳首をつまんでくる。

●中央

【ここで初めて喘ぐ。小さめの声で】

あっ……もう。手。やーらしらっ♥

【少し余裕がなくなってくる】

そんなにこねこねされたらあ。トワの乳首。かちかちになっちゃいますよお……？

【小さめだが、非常に感じている声。痺れるような快感】

はっ……！

だめっ、たらあ♥

【声を我慢して、言葉とは裏腹に余裕があるふりをする】

あ。気持ちよすぎ……。

【乳首の真ん中部分をちろちろなめられて、びくつとする】

ちろちろって、しないでえ。お乳好きの変態さんなんですからあ♥

あんっ。……それ、だめですう……♥

【20秒くらい。快感に耐えるように、ゆっくり呼吸し、声が低くなる】

はあ……はあ……はあ……ふう……

SE28

【0—6秒ほどまで流す】主人公がもぞもぞ動く音

トワ、まずい。主人公を癒すつもりだったのに、このままだと自分が攻められちゃうかも……。と思っ。

しかしそこで、主人公が自分の胸に触りながら、腰をくねくねさせているのに気づく。

●中央

【優しく】

んっ」

トワ、手を伸ばして、主人公の服の上から股間をさする。  
スカートの上から触っているのに、そこからでもなんとなくしっとりしている。

トワ、そうさせたのは自分なのに、ドキっとする。

『これは逆転のチャンスですねっ！』と思う。

SE29

【0—2秒ほどまで流す。ごく小さめに】トワが主人公の股間をさする音

●中央

「……あ♥ ここがむずむずしてきちゃったんですね？

わかりますよね？

さつきから♥ おっぱい飲みながらあ。

興奮して。ずっと腰もぞもぞして！ ぱんつにクリちゃんすりすりしてたでしょう。

トワ、ちゃあんとみてたんですね♥

●右耳にささやく

【優しく、少し意地悪に】

おまんこいじいじしてほしくなっちゃったの？ そうなんでしょう？

●中央

『そうです』って、ちゃあんと言えるかな？」

主人公、顔を真っ赤にして頷く。

〈主人公〉

「……そう、です……」

●右耳

「うっ。偉い子ですね♥」

トワ、主人公を仰向けにさせ、スカートはそのまま、下着だけ脱がそうとする。

●中央、上

「じゃあ♥ 脱ぎ脱ぎしましょうね♥

はい。足開いてえ？」

SE30…主人公が仰向けになる音

●中央、上

「あ♥ これ！ この前のお休みにトワが買ってあげたパンツですね♥  
いい子だから。ちゃんと履いてたんですね♥」

SE31…【0—2秒ほどまでの『くちゅ』1回分のみ】トワが主人公の股間に触る水音

●下

【興奮して】

あ♥ すご♥ とろとろだあ……。

●中央

トワのおっぱいちゅちゅしてるだけで、こおんなになっちゃったの？  
おっぱいの後はクリちゃんいたずらしてもらええると思って♥  
えっちなお汁で。  
ばんつぬるぬるにしちゃったの？

【優しく】

いいですよ♥ 隠さないで。  
トワの前では。どれだけえっちになってもいいんですよ。  
トワのおっぱい飲みながら、おまんこ気持ちよくなりたいんですよ♥「

主人公、両手で鼻まで覆いながら、恥ずかしそうに頷く。  
トワ、それを見て、やっぱり主人公を攻めるの大好き！ 最高！ と感じる。  
しかし、自分で言い出したものの、こういう姿勢をとればいいのか？ と少し悩む。  
このまま一緒に横になって、自分が手を伸ばして触るのがいいかな？ と考える。

SE32…【本来の音よりかなりゆっくり加工しながら、セリフと重ねて、33が始まる  
480まで流す】トワが主人公の股間に触る水音

●中央

【「くっ」と喉を鳴らす】

くっくっ。

【興奮して、少しからかうように】

わ♥ 熱う♥ ちよっとさすっただけで。  
するんっっておまんこの中に指が入っちゃいそうなす♥  
可愛いなあ……トワとしてみたくてこんなになっちゃうなんて♥ 本当に可愛いです。



あ……！ もう、えっちゃんなんだからあ。

【※マークまで、いたって普通のトーンで話しているが、これが本心】

えへ。……トワ、アナタのこと、もっとえっちにしたいです。

毎晩泣くまであんあんさせて、ぺたって寝ちやうまで全身いたずらして。

トワなしじゃいられない身体にしたい。 ※

【熱っぽく本音が漏れる】

大好きですよ……いっぱい気持ちよくなって下さいね……♡

トワ、主人公に奉仕するつもりだったのに、本音が漏れ始めていることに気づく。  
今日したいのは、あくまで主人公を癒すことなので、そーっと方向転換する。

SE34

：【535まで、本来の音よりかなりゆっくり加工して、繰り返して流す。感じる場所に丹念に愛液を塗り込んで、ゆっくりさすっているイメージ】トワが主人公の股間に触る水

音

●中央

「【ここで方向転換する】

あ、そうだ♡ これも。好きですよね♡

いっぱいぬるぬるつけてえ。ゆっくりちゅこちゅこするの♡

●右耳にささやく

いついってもいいですよ。ぎゅーって支えてあげますから。

イってぴくんぴくんしてる恥ずかしくてやらしい姿。トワに見せて下さいね♡

●右

【自分の指の動きに合わせて言っている】

くちゅ、くちゅ♡ くちゅ、くちゅ♡ くちゅ、くちゅ

【主人公が感じて、すっかりとろけているので】

ふふ♡ おまんこ気持ちいいね♡

すりすりされて、クリちゃん嬉しいね♡

【自分の指の動きに合わせて言っている】

くちゅ、くちゅ♡ くちゅ、くちゅ♡ くちゅ、くちゅ♡

〈主人公〉

「……ト、トワちゃん……。わたし、もう……」

※ここからSE34の速度をやや早める。元の速度よりはゆっくりで

●右寄り

【少し気遣うように】

あ。そろそろいきそう？

いいよ。いく時は。トワの名前呼んでね♥

【少し間を空けてから。とても優しく】

うん。いいよ♥ 声聞かせて？

うん♥

〈主人公〉

「ああああつ……！ トワちゃん、いくつ……♥」

●右寄り

【びくつとする主人公の身体を支えて、自分も声が漏れる】

あ♥ んっ……！」

SE35

【あまり激しく『ドサー』と落ちた印象にならないように、ゆっくりめに加工する】主人公がベッドに力なく倒れる音

〈主人公〉

「はあ……はあ……はあ……。トワちゃん……トワちゃん……」

トワ、主人公がすっかり脱力しつつ、自分にしがみつこうとしてくるのがかわいい。とても優しい気分になる。

●中央

【20秒くらい。ゆっくり息を整える】

はあ……はあ……はあ……。♡

●中央

いい子、いい子。とっても可愛くイけましたね♥

上手にイけて。すっごく偉い子です♥

【唇に軽くキスする】

ちゅ♥ よし、よし」

SE36

【0—3秒ほどまでの『ぼんぼん、ぼんぼん』のみを、3回繰り返す】トワが主人公の背中を撫でる音

●中央

【主人公を落ち着かせるように優しく】

ゆっくり呼吸して？

とんとんしましようね。

【とてもゆっくりと。自分が背中を叩く音に合わせて言っている】

とん、とん。とん、とん♥